

2020年12月期 決算説明会資料

2021年2月

株式会社HANATOUR JAPAN



東証マザーズ コード 6561

目次

01 決算概要

02 今後の戦略

APPENDIX

サマリー

■ 2020年12月は前年同期比85.6%減収 21億円営業損失
■ 為替差損449百万円を計上し25億円経常損失

■ 新型コロナウイルス感染症の影響による減収減益
■ 収束時期は依然として不透明

■ SNSを活用した在留外国人への営業強化
■ 海外大手有力サイトとのAPI連携推進

■ インバウンド実証事業及びオリンピック需要取り込みの準備



01 決算概要

2020年12月期 実績サマリー

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による低迷に加え為替差損（449百万円）が発生

	2019/12		前期比			
		構成比	2020/12	差額	増減率	構成比
売上高	6,593	100.0	948	△ 5,645	△ 85.6	100.0
営業利益	270	4.2	△ 2,186	△ 2,456	-	△ 230.7
経常利益	△ 369	△ 5.6	△ 2,529	△ 2,161	-	△ 266.8
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 765	△ 11.6	△ 2,861	△ 2,097	-	△ 301.8
1株当たり当期純利益	△ 70.33		△ 262.75			
1株当たり配当金	20.00		-			
為替レートの JPY/100KRW	2019.12.4Q 9.46		2020.12.4Q 9.52			

2020年12月期 損益計算書

韓国ウォン安による為替評価損（営業外費用） 減損損失・構造改善費用を特別損失に計上

単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

	2019/12		前期比			
	2019/12	構成比	2020/12	増減	伸率	構成比
売上高	6,593	100.0	948	△ 5,645	△ 85.6	100.0
売上原価	2,184	33.1	578	△ 1,606	△ 73.5	61.0
売上総利益	4,409	66.9	369	△ 4,040	△ 91.6	39.0
販管費	4,138	62.8	2,556	△ 1582	△ 38.2	269.6
うち人件費	1,407	21.3	791	△ 616	△ 43.8	83.5
営業利益	270	4.2	△ 2,186	△ 2,456	-	△ 230.7
経常利益	△ 369	△ 5.6	△ 2,529	△ 2,160	-	△ 266.8
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 765	△ 11.6	△ 2,861	△ 2,096	-	△ 301.8

売上原価
・バス事業：△1,123百万円
・免税事業：△306百万円

販管費
・旅行事業：△247百万円
・バス事業：△147百万円
・免税事業：△1,003百万円
・ホテル事業：△181百万円 （札幌大通ホテルの販管費 +319百万円）

営業外損益
・コロナ雇調金等 助成金 186百万円
・為替差損 449百万円

特別損失
・構造改善費用 78百万円
・店舗閉鎖引当 23百万円
・減損損失 196百万円

2020年12月期 セグメント別

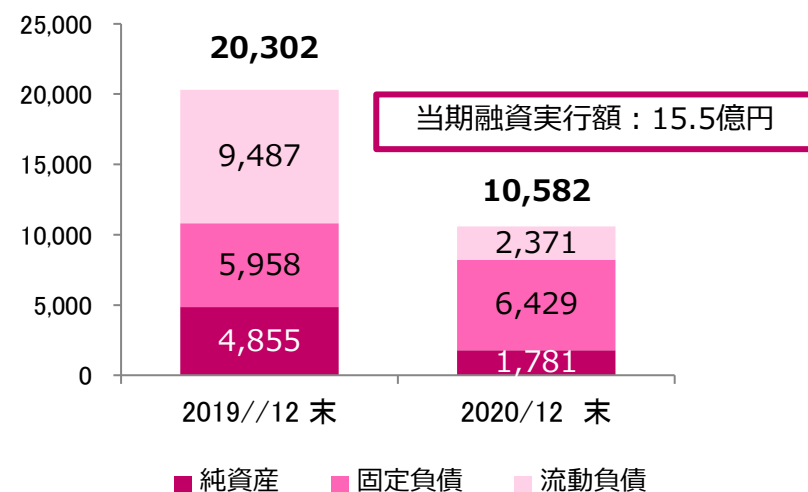
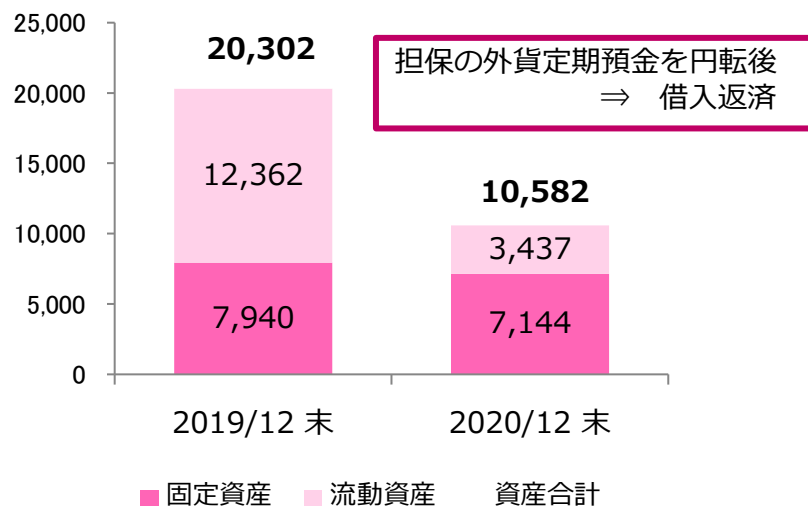
単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

		2019/12	2020/12	前期比		
				増減	伸率	構成比
旅行事業	売上高 セグメント利益 利益率	1,976 443 22.5	140 △ 355 —	△ 1,835 △ 799 —	△ 92.9 — —	14.8 16.2 —
バス事業	売上高 セグメント利益 利益率	2,026 139 6.9	199 △ 416 —	△ 1,826 △ 556 —	△ 90.2 — —	21.0 19.0 —
免税販売店事業	売上高 セグメント利益 利益率	1,535 △ 22 —	103 △ 143 —	△ 1,431 △ 121 —	△ 93.3 — —	10.9 6.5 —
ホテル等施設運営事業	売上高 セグメント利益 利益率	1,912 171 9.0	570 △ 942 —	△ 1,341 △ 1,113 —	△ 70.2 — —	60.1 43.1 —
その他	売上高 セグメント利益 利益率	196 △ 48 —	44 3 6.8	△ 152 52 —	23.5 — —	4.6 △ 0.1 —
小計	売上高 セグメント利益 利益率	7,646 683 8.9	1,058 △ 1,854 —	△ 6,588 △ 2,537 —	△ 86.2 — —	111.6 84.8 —
調整等	売上高 セグメント利益 利益率	△ 1,053 △ 412 —	△ 110 △ 332 —	942 80 —	△ 89.6 — —	△ 11.6 15.2 —
合計	売上高 営業利益 利益率	6,593 270 4.1	948 △ 2,186 —	△ 5,645 △ 2,457 —	△ 85.5 — —	100.0 100.0 —

2020年12月期 貸借対照表

当期融資実行額 15.5億円 Cash残高 30億円 外貨定期預金の円転（為替リスク解消）

単位：百万円（百万円未満切捨て）



流動資産	3,437	(△8,924)	
■ 現金及び預金	3,026	(△7,686)	外貨定期△7,816
■ 売掛金	43	(△798)	
■ その他流資	156	(△301)	消費税還付△253
固定資産	7,144	(△795)	
■ 有形固定資産	5,630	(△723)	以外-事業譲渡、減損
■ 無形固定資産	69	(△95)	以外-事業譲渡、減損
流動負債	2,371	(△7,116)	
■ 営業未払金	11	(△325)	
■ 短期借入金	1,413	(△6,282)	外貨担保の借入返済 他
■ リース債務	260	(△145)	以外-事業譲渡による減少
固定負債	6,429	(+470)	
■ 長期借入金	1,364	(+880)	
■ リース債務	4,933	(△252)	以外-事業譲渡による減少
純資産	1,781	(△3,073)	
■ 資本金	1,022		
■ 資本剰余金	966		
■ 利益剰余金	△39	(△3,079)	配当△217 当期利益△2,861

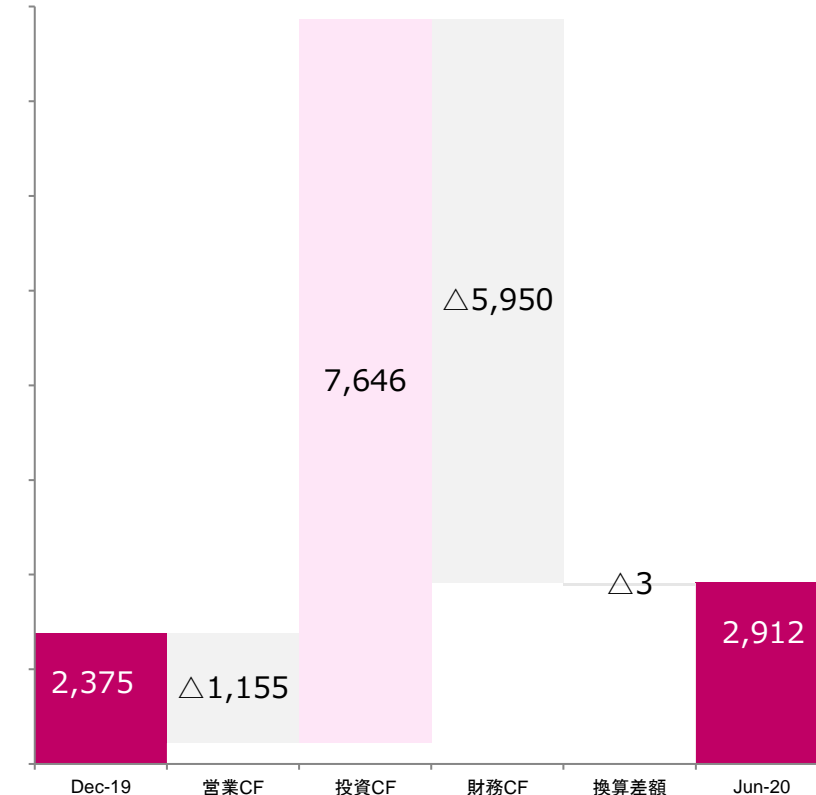
2020年12月期 CF計算書

資金調達（金融機関融資）1,550百万円 大森ホテルML料 一部敷金充当 京都敷金支払

CF計算書

単位：百万円（百万円未満切捨て）

(百万円)



+537

※百万円未満切捨て

営業CF △1,155

■ 営業損失	△2,186 + 償却費468 = △1,718
■ 営業債権債務	530
■ 消費税還付	99 ホテル大通 建物に係る消費税

投資CF 7,646

■ 定期預金 解約	7,816 外貨定期預金 解約による円転
■ 敷金保証金	282 大森ホテル賃料充当
	△ 284 京都新規ホテル 敷金支払

財務CF △ 5,950

■ 短・長借入金	△ 5,340 新規借入 1,550
	返済 △6,890
■ リース・割賦債務	△ 292
■ 配当	△ 217 配当支払い

◆ 資金調達

- ・ 1,550
- 金融機関融資 短期500 長期1,050

◆ Cash捻出

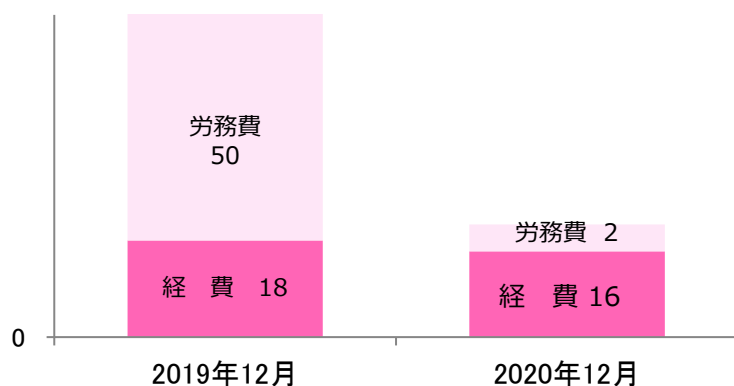
- ・ 1,344
- 外貨定期預金 解約円転7,816M (投資CF)
- 短期借入金 返済6,472M (財務CF) による捻出

2020年12月期 固定費の削減

構造改革により1カ月あたり124百万円の固定費を削減

1ヶ月あたりの売上原価（固定費）バス事業

単位：百万円（百万円未満切捨て）



1ヶ月あたりの販管費（固定費）

単位：百万円（百万円未満切捨て）

		2019年12月	2020年12月	削減額
HTJ	人件費	52	23	△29
	経費	33	23	△10
子会社	人件費	47	26	△21
	経費	83	68	△15
合計	人件費	99	50	△49
	経費	117	92	△25

削減額：△50百万円/月

+

削減額：△74百万円/月

構造改善による固定費削減額：△124百万円/月

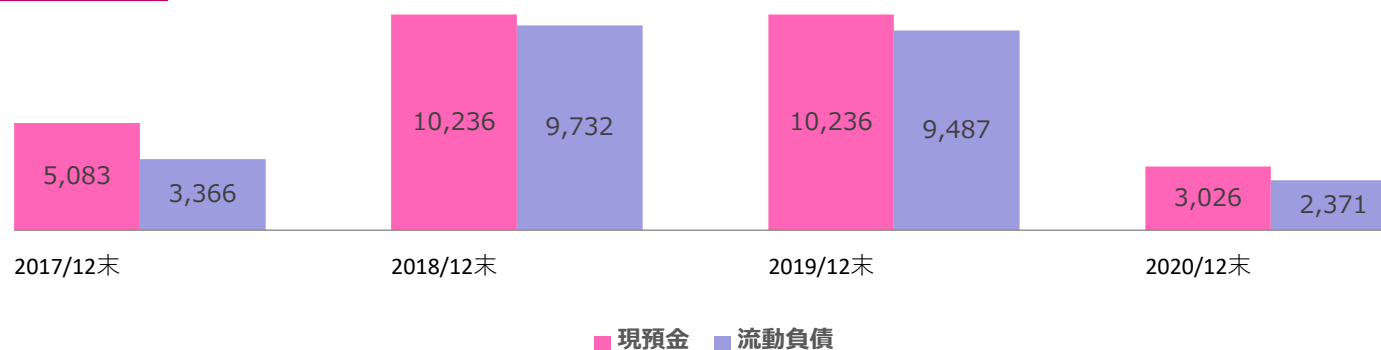
アフターコロナにおける利益率向上目指す

2020年12月期 現預金・流動負債、自己資本比率の推移

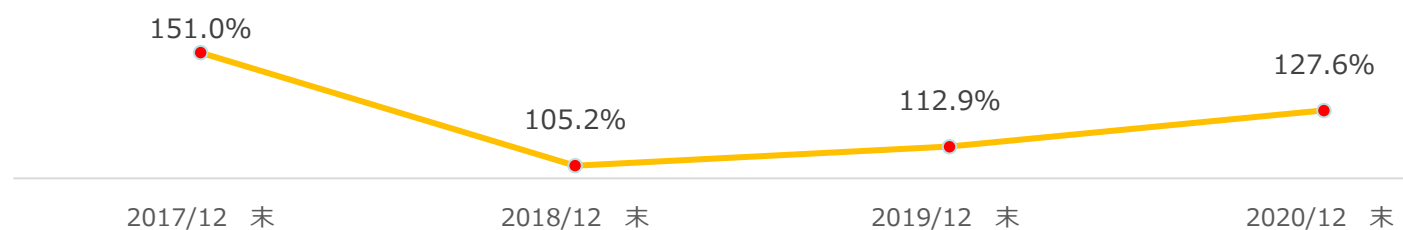
外貨定期預金の円転（為替リスク解消） Cash 30億

現預金 流動負債

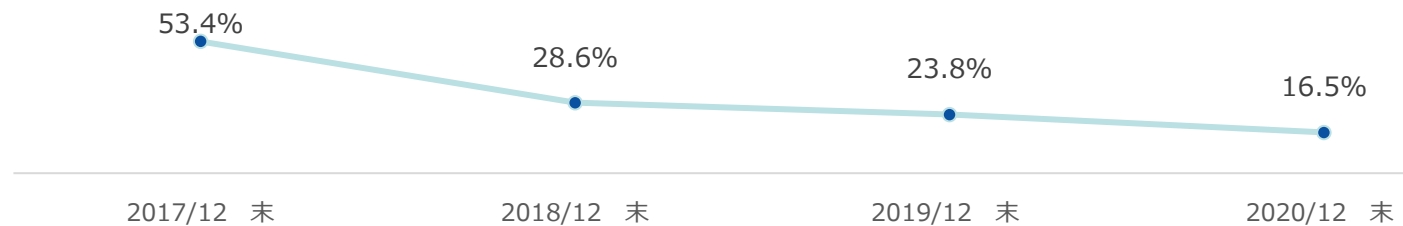
単位：百万円（百万円未満切捨て）



現預金／流動負債 比率

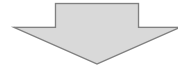


自己資本比率

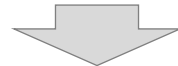


資金調達
+
構造改善コストカット
↓
当面の運転資金確保

- ・ 厳しい外部環境による営業赤字
- ・ 新型コロナウイルス感染症の収束時期は不透明



業績回復時期が不透明
今後の経営成績・財務状況に不確実性



GC注記

対策①

経営基盤の強化

- ・ 経営効率化
- ・ 営業力強化

対策②

財務体質の強化

- ・ 金融機関、親会社へ継続した支援要請
- ・ 状況に合わせ増資の検討

2021年12月期 業績予想 配当予想について

新型コロナウイルス感染症による観光産業への影響は、ワクチン接種を開始した国が存在するものの、収束時期は依然として不透明であり、今後も厳しい状況が継続することが予想されます。現時点では依然として収束の見通しは立っておらず、業績予想の算定が困難な状況です。

従いまして2021年12月期の連結業績予想及び配当は未定とさせていただき、影響額の算定が可能となった時点であらためて開示させていただきます。



02 今後の戦略

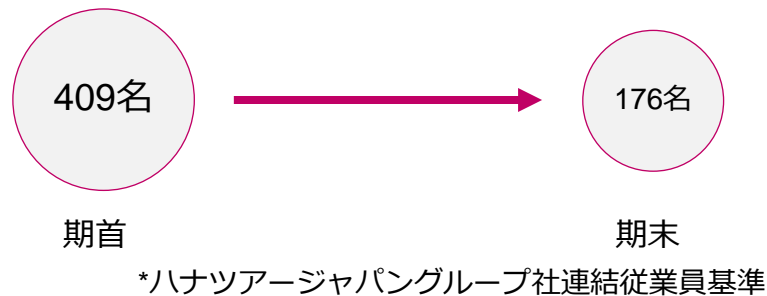
2020年12月期の取り組み

外部環境の悪化を踏まえ、経営環境対応

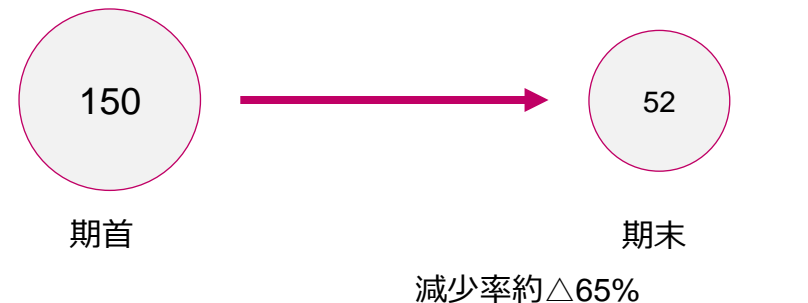
抜本的な固定経費の見直し

- 全事業人員削減
- 旅行事業・バス事業における営業拠点の統廃合

【従業員の推移】



【人件費の削減】



選択と集中

- 免税事業及び周遊観光バス「くるくるバス」の事業廃止
- バス事業の一時休止、各事業営業拠点の統廃合
- レンタカー事業の譲渡

各種助成金などの活用

- 通期185百万円（5月の持続化給付金含む）

2021年12月期 セグメント別重点施策

外部環境の継続を前提とし、当面は必要最低人員を維持しながら市場回復に備える

経営効率化

営業力強化

旅行事業

- ▶ 本社移転、子会社の集約
- ▶ 全社的休業によるコスト削減
- ▶ 雇用調整助成金の活用

- ▶ インバウンド市場回復を見据えた取組み
 - 政府インバウンド実証事業参画準備
 - 観光地紹介動画によるPR開始
 - 海外有力サイトとのAPI連携推進
- ▶ GoTo再開・国内需要を見据えた取組み
 - 在留外国人向けSNS PR活用
 - 在日外資系企業への営業強化

バス事業

- ▶ 営業拠点の選択と集中
 - 東京・大阪の2拠点へ絞り込み
- ▶ 全社的休業によるコスト削減

- ▶ オリンピック（メディアクルー送迎）需要の獲得
- ▶ クルー送迎便の獲得
- ▶ 国内AGTへの営業強化
- ▶ 国内向け販売強化

ホテル等施設
運営事業

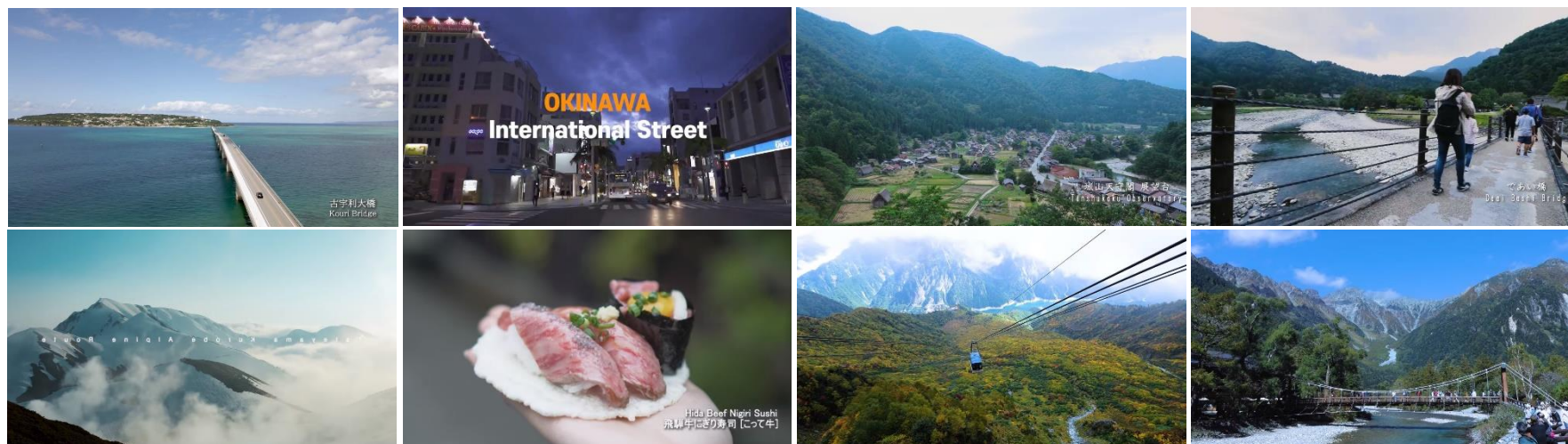
- ▶ Tマークシティホテル札幌及び札幌大通の一時休業（当面の間）
- ▶ 賃貸料の減免・猶予など交渉
- ▶ 清掃等ランニングコストの見直し

- ▶ 東京大森
 - 航空会社乗務員の宿泊誘致強化
- ▶ 新ブランド「ホテルセンレン京都東山清水（167室）」開業 2021年3月1日（予定）
- ▶ 2021年9月 金沢に開業予定（110室）

2021年12月期 セグメント別の取り組み

旅行事業：インバウンド市場回復を見据えた取り組み

■ 観光地の魅力を紹介するプロモーション映像（サンプル）



■ 観光庁発表の「インバウンド復活の実証事業」構想

令和2年12月3日 観光戦略実行推進会議にて示された「インバウンドの段階的回復に向けた小規模分散型パッケージツアー」の実証事業を念頭に、ポストコロナに相応しい商品開発、及び受入体制の整備と構築を行う。

出典：観光戦略実行推進会議（第41回）観光庁資料



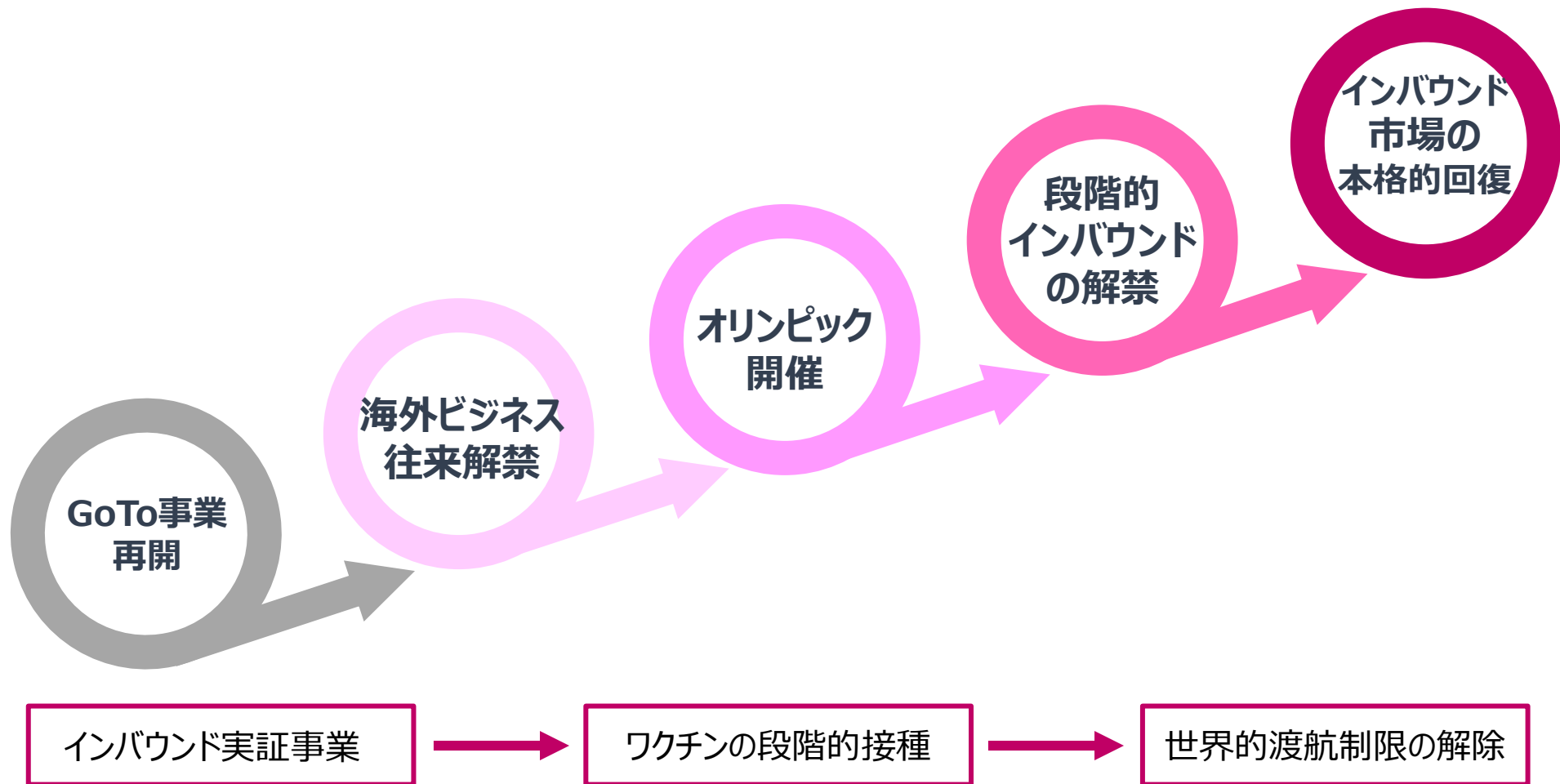
2021年12月期 セグメント別の取り組み

ホテル等施設運営事業：新ブランド「ホテルセンレン京都東山清水」の開業

- 167室 2021年3月1日開業（予定）



2021年12月期 今後の見通し



APPENDIX

2020年12月期 主要データ

	2018/12	2019/12	2020/12
商品別取扱高構成比			
ツアー	69%	65%	35%
TOMARU	16%	24%	55%
TOPKEN	15%	11%	10%
単価	13,700	12,712	9,945
事業部別売上高構成比			
韓国	63%	47%	16%
韓国以外	37%	53%	84%
友愛観光バスの稼働率	70%	61%	13%
バス保有台数	132	136	138
累計稼働台数	1543	1,671	1,656
くるくるバス利用者数	49,571	36,279	2,313
ホテル客室販売数	113,879	167,102	77,128
ADR	9,485	9,739	6,038
稼働率	79.8%	83.74%	25.3%

※いずれも単体ベース

会社概要 (2020年12月期)

インバウンド専門のBtoB向け旅行会社として訪日観光サービスをワンストップで提供

会社名	株式会社 HANATOUR JAPAN
設立	2005年9月
代表者	代表取締役社長 李炳燦 (Byung-Chan Lee)
資本金	10億2,200万円
従業員数	176名 (2020年12月末現在)

MISSION

世界の旅行者に「安全」で「感動的」な旅行（体験）を提供し、人々を幸せにすることを通じて、世界平和に貢献する

Heart : 旅行を通じて幸福な世界を期待する

New Vision : 顧客満足のため先に未来を開く

Trust : 新しい文化創造を通じた感動と信頼を約束する

(株) HANATOUR JAPAN

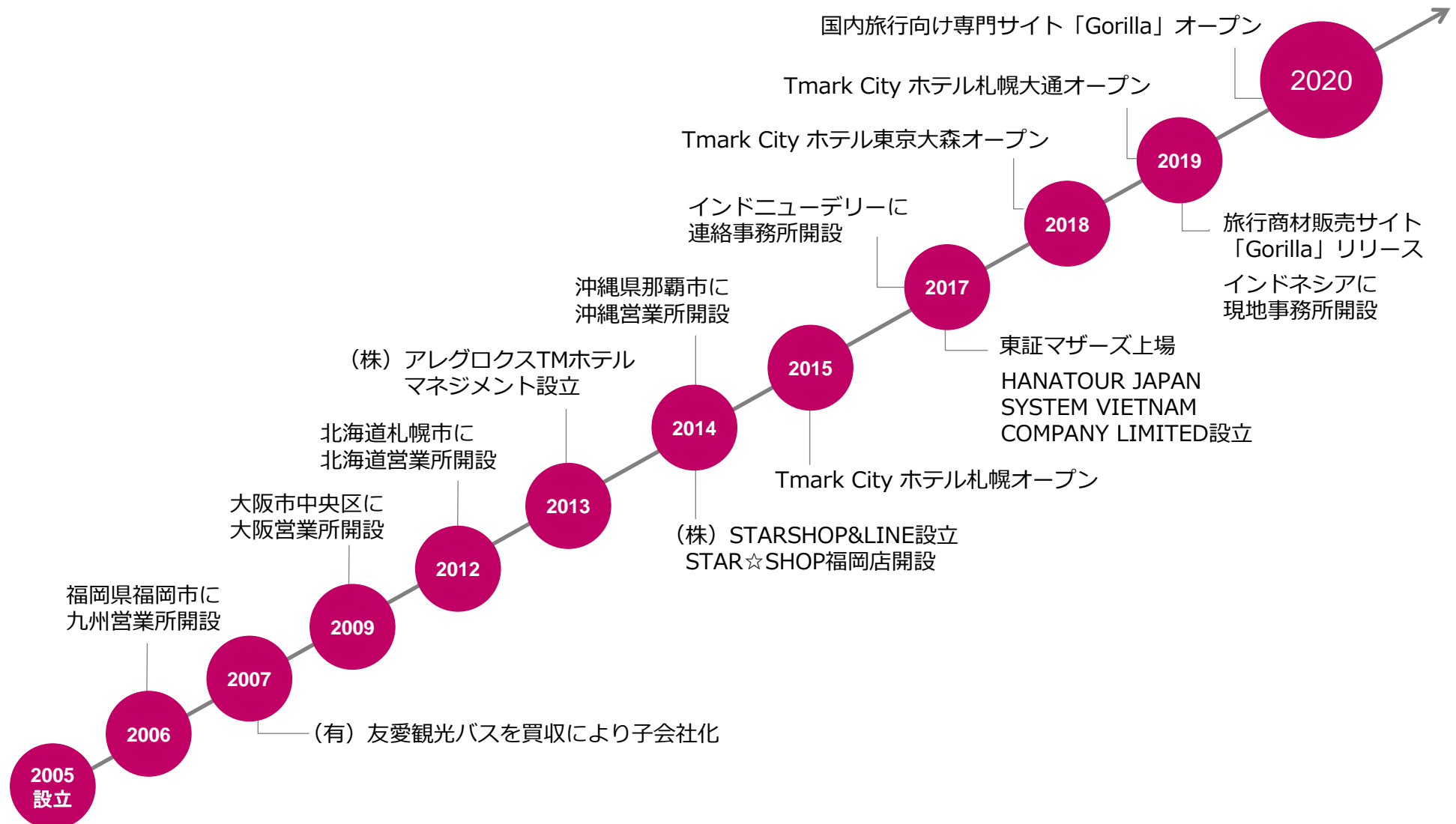
旅行事業

	(株) 友愛観光バス	(株) STARSHOP&LINE ※清算中	(株) アレグロクスTM ホテルマネジメント	(有) HANATOUR JAPAN SYSTEM VIETNAM COMPANY LIMITED
資本金 ※	75百万円 (100%)	101百万円 (100%)	9.9百万円 (100%)	1.1百万円 (100%)
事業内容	インバウンドを中心とした貸切観光バスの運行及び送迎バスの運行	免税店の運営、小売	Tmark Cityホテルの運営	ソフトウェア開発
事業セグメント	バス事業	免税販売店事業	ホテル等施設運営事業	その他

※資本金（カッコ内）は(株) HANATOUR JAPANの出資比率

沿革

国内及び東南アジアへの事業基盤の拡大強化が進行中



事業内容

旅行事業

- 韓国からのインバウンド手配旅行（パッケージツアー主体）
- アジア各国からのインバウンド旅行の手配
- ホテル、旅館等の宿泊販売のJAPAN TOMARU運営
- 日本現地ツアー、交通パス、観光施設のチケット販売のJAPAN TOPKEN運営

バス事業

- インバウンドを中心とした貸切観光バスの運行・送迎バス
- 九州・大阪・北海道・東京における日帰り周遊バス「くるくるバス」
- 業界と比較し高いバス稼働率
- 51台以上の貸切バスを保有している事業者は全体の2.1%※

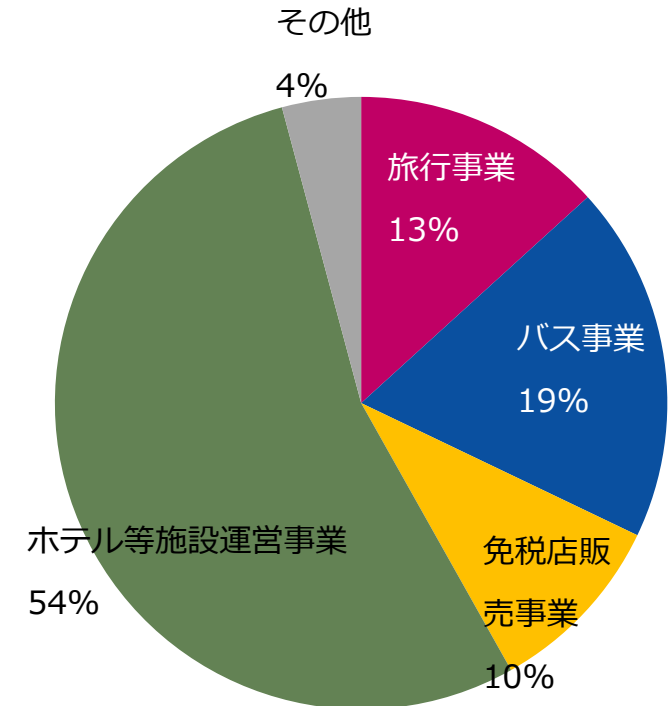
免税店販売事業

※清算中

ホテル事業

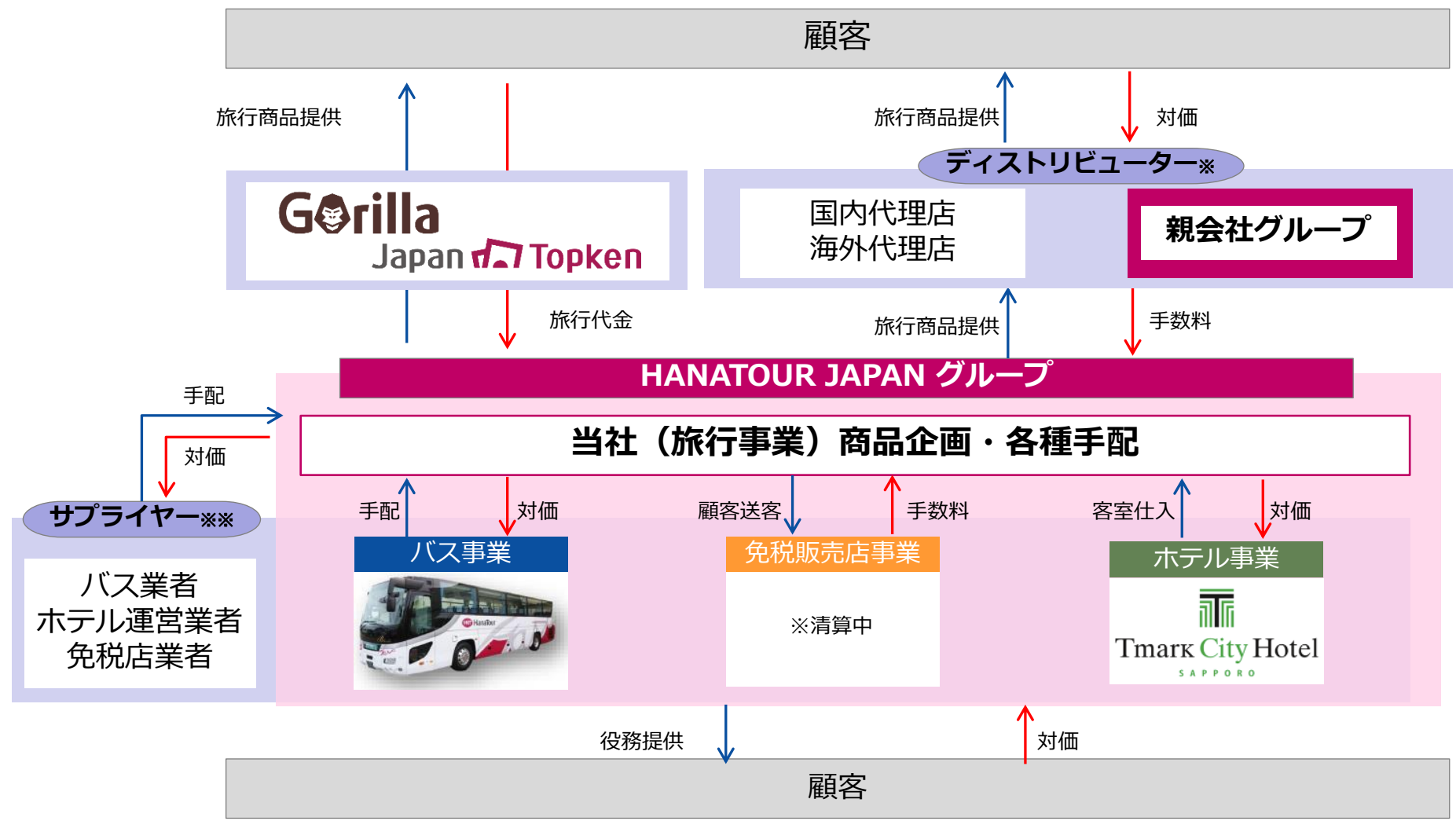
- 札幌 2015年4月開業 246室
- 東京大森 2018年 7月開業 288室
- 札幌大通 2019年12月開業 150室
- リース契約による賃借
- 国内外の大手旅行会社との強いパイプ

セグメント別売上高構成比(2020/12)



ビジネスモデル

インバウンド旅行商品の企画・各種手配、移動・買物・宿泊をグループでワンストップで提供



※ディストリビューター：海外旅行素材を旅行会社に卸売
 ※※サプライヤー：運輸・宿泊・レストラン・土産物・観光施設等、旅行を構成するサービスの提供者

ディスクレームー

- 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

【お問い合わせ先】

株式会社HANATOUR JAPAN

経営企画室

TEL 03-6402-4411

ホームページ <http://www.hanatourjapan.jp/>